



No. 0743.4/ 16082

Royal Forest Department,  
61 Paholyothin Road,  
Chatuchak, Bangkok 10900

/ July, 1999

Dear, Mr. Iwaguchi

**Subject:** Supplementary Study Team's Recommendation on "The Reforestation and Extension Project in Northeast of Thailand Phase II (REX II)"

With reference to Mr. Hiroshi Masuko's letter dated 18 June 1999, requesting us to consider on the proposal concerning above mentioned project. We would like to inform you that we have followed closely on the progress of discussion on the said project between Supplementary Study Team and our officials. In this regards, we will try our best to accommodate and arrange every things as Mr. Masako's request, such as the head office, schedule of Implementation Study Team, etc. Thus, we strongly expect that the project will be able to start on given schedule. It will be much appreciate, if you could forward this information to Mr. Masuko.

With all the best wishes, we remain.

Yours sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read "P. Suraswadi".

Plodprasop Suraswadi, Ph.D.  
Director General, RFD

Mr. Kenji Iwaguchi  
Resident Representative  
Japan International Cooperation Agency  
Thailand Office  
1674/1 New Petchburi Road,  
Bangkok 10320  
Tel. 251-2735, 251-1655  
Fax. 255-3725

# 活動計画書

付属資料4

REX II プロジェクト活動 (1999.6.18)

活動	担当部門(協力部門)	コメント
1. 森林経営情報		
1-1 ベースラインサーベイの実施 (1) 社会経済情報 (2) ニーズサーベイ (3) プロジェクトインパクト調査など。	N,P,C	
1-2 森林経営情報の収集・分析 (1) 造林技術情報 (2) アグロフォレストリー技術 (3) 林産品の利用技術・マーケティング情報 (4) 地域社会森林技術情報など	N,P,C N,P,C N,P,C P,C	
1-3 森林経営のためのデータベースマネジメントシステムの構築 (1) コンピュータ利用によるデータベースの構築. (2) 情報入力、データベースのメンテナンス	IC IC	(1) ソフトウェアおよびハードウェアの活用
1-4 森林経営情報の活用 (1) 造林普及情報センターの設立  (2) 森林経営情報のネットワークの構築  (3) 森林経営情報の提供手法の開発	IC IC N,P,C	(1) 各センター情報部門および本部情報センターの設立 (2) 県事務所、地域事務所、苗畑センター他政府機関、他援助機関、NGO、JOCV、森林研究所、他国関係者、マスメディア関係者 国際ワークショップの実施 技術交換の実施 (3) 出版物、ビデオ、ポスター、TV、ラジオ等の活用
2. 森林経営技術.		
2-1 苗畑技術の開発 (1) 用途に応じた樹種の選定 (2) 苗木生産技術の開発 (3) 種子生産およびクローン生産技術体制の確立 (4) 苗木運搬技術の改良	RO,N,P N N N	(1) 小規模造林地を対象 (2) 栄養繁殖技術の活用 (3) 種子園、採穂園の設置等 (4) 梱包・保管技術含む
RO:森林研究所      N:苗畑部      P:私有林部 C:共有林部      S:国有林部      IC:情報センター		

2-2 造林技術開発		
(1) 植林技術の改良	RO	(1) 耕運、施肥など、生存率向上、成長率向上の為の技術
(2) 育林技術の改良	RO	(2) 下刈、枝打、間伐
(3) 更新技術の改良	RO	(3) 天然更新、人工更新
2-3 林産物利用方法の開発		
(1) 伐採技術の紹介	P	(1) 伐採、運搬
(2) 林産品の高度利用技術の改良	P,C	(2) 木材・特用林産物
2-4 展示林の整備	S	2-4 JICA 設立の展示林を対象
2-5 森林経営ハンドブックの作成	P,C	2-5 森林経営技術の開発に利用
3. 訓練・普及		
3-1 実証・訓練・普及のためのモデル林の設定		寺社林、学校林、共有林、小規模林家保有林など地域に根ざしたモデル林の設定
(1) モデル林業農家およびコミュニティフォレストの選定	P,C	(1) 1 センターあたり 2~3 件の農家所有モデル林、コミュニティフォレストの選定
(2) モデル林業農家およびコミュニティフォレストへの振興	P,C	(2) 技術情報の提供他(インセンティブ等)
(3) モデル森林施業計画の作成	P,C	(3) モデルフォレスト・展示林を対象
3-2 森林経営にかかる訓練技術の開発		
(1) カリキュラム・教材の開発	N,P,C	
(2) 訓練実施場所の選定	N,P,C,RO	
(3) 訓練・普及担当職員への訓練実施	N,P,C	(2) 効果的利便的なモデルフォレストの選定
(4) 住民・関係機関職員への訓練実施	N,P,C	
3-3 森林経営にかかる普及技術の開発		
(1) 普及ターゲットグループの選定	P,C	(1) 農家および農家グループ、地域社会、NGO
(2) 普及手法・技術の実施	P,C	(2) ネットワーク、モバイルユニット、農民フォーラム等の活用
3-4 モニタリング・評価技術の開発	P,C	

RO:森林研究所

N:苗畑部

P:私有林部

C:共有林部

S:国有林部

IC:情報センター

Narrative Summary (プロジェクトの要約)	Objectively Verifiable Indicators (指標)	Means of Verification (指標の入手手段)	Assumption (外部条件)
<p>Super Goal (スーパーゴール)</p> <p>プロジェクト対象地域住民の生活水準が向上する プロジェクト対象地域において植林面積が増加する</p>	<p>プロジェクト対象地域の住民の生活が向上する プロジェクト対象地域において植林面積が増加する</p>	<p>家計調査・生活調査 (政府統計資料) RFI (REX センサー) によるモニタリング</p>	<p>タイの森林政策が大きく変化しない 大きな気候変動が発生しない</p>
<p>Overall Goal (上位目標)</p> <p>プロジェクト対象地域において、持続可能な森林経営技術が実践される</p>	<p>プロジェクトで確立した森林経営技術を導入している農家の数および植林面積が増える。</p>	<p>RFI (REX センサー) によるモニタリング</p>	<p>森林主産物・森林副産物の価格が大きく変化しない 大きな気候変動が発生しない</p>
<p>Project Purpose (プロジェクト目標)</p> <p>プロジェクト対象地域において、小規模造林地における持続可能な森林経営技術の開発・普及体制が整う</p>	<p>プロジェクト終了時点で小規模造林地に対する森林経営技術情報が蓄積され指導・普及する体制が整備される。</p>	<p>RFI 報告書</p>	<p>土地所有制度・林業制度に大きな変化がない</p>
<p>Outputs (成果)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>森林経営のための技術情報が蓄積・更新される</li> <li>小規模造林地における森林経営技術が改善・開発される</li> <li>森林経営技術情報が住民に伝達される</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>収集された情報が活用される形で蓄積される。</li> <li>森林経営技術のネットワークが作成される</li> <li>モデル林やモデル農家に對する技術的森林経営計画が作成される。</li> <li>住民への普及・訓練手法が確立される</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>情報データベース</li> <li>プロジェクト(REX センサー)活動報告書、ネットワーク</li> <li>プロジェクト(REX センサー)活動報告書、商業計画書</li> <li>プロジェクト(REX センサー)活動報告書</li> </ol>	<p>C/P が定着する タイの経済・社会状況に大きな変化がない</p>
<p>Activities (活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>森林経営情報             <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 ベースラインサーベイの実施 「社会経済情報」「ニーズサーベイ」「プロジェクトインパクト調査」など。</li> <li>1-2 森林経営情報の収集・分析 「森林技術情報」「アグロフォレストリ技術」「林産品の利用技術」「マーケティング情報」「地域社会森林技術情報」など</li> <li>1-3 森林経営のための「ターゲット・ベース・マネジメントシステム」の構築 「コンピュータ利用による「ターゲット・ベース」の構築」「情報入力」 「ターゲット・ベースのメンテナンス」</li> <li>1-4 森林経営情報の活用 「造林普及情報センターの設立」「森林経営情報のネットワークの構築」「森林経営情報の提供手法の開発」</li> </ol> </li> <li>森林経営技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 苗圃技術の開発 「用途に応じた樹種の選定」「苗木生産技術の開発」「種子生産およびクローン生産技術の確立」「苗木運搬技術の改良」</li> <li>2-2 造林技術の開発 「植林技術の改良」「育林技術の改良」「更新技術の改良」</li> <li>2-3 林産物利用方法の開発 「伐採技術の紹介」「林産品の高度利用技術の改良」</li> <li>2-4 展示林の整備</li> <li>2-5 森林経営ネットワークの作成</li> </ol> </li> <li>訓練・普及             <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 モデル林の設定 「モデル林業農家およびコミュニティ・オリエントの選定」「モデル林業農家およびコミュニティ・オリエントへの訪問」「モデル森林経営計画の作成」</li> <li>3-2 森林経営にかかわる訓練技術の開発 「カリキュラム・教材の開発」「訓練実施場所の選定」「訓練・普及担当職員への訓練実施」「住民・関係機関職員への訓練実施」</li> <li>3-3 森林経営にかかわる普及技術の開発 「普及ターゲット・グループの選定」「普及手法・技術の実施」</li> <li>3-4 モニタリング・評価技術の開発・実施</li> </ol> </li> </ol>	<p>日本側: 専門家派遣 長期専門家 5人/年 (4-777) (4/4)*、造林技術開発、森林経営情報、普及・訓練、業務調整 短期専門家 20人程度 (社会経済調査・モニタリング、栄養管理技術、アグロフォレストリ技術、木材利用技術、林産物調査、伐採・輸送技術、森林経営計画書)</p> <p>タイ側: 1. 研修員受け入れ 人年度 2. 機材供与 3. ローカルコストの一部負担 4. 青年海外協力隊員 (4000) の一環として情報交換</p>	<p>Pre-conditions 住民がプロジェクトを受け入れる</p>	<p>森林主産物・非木材林産物の価格が大きく変化しない 投入のタイミングが遅れない</p>

東北タイ造林普及計画フェーズⅡ プロジェクト組織関連図  
 Organization Chart of The Reforestation and Extension project in the Northeast of Thailand Phase II

